

## センター行事メモ

### ●海外研究者招聘

年 月 日	招 聘 者	招 聘 目 的
1995. 2.27～ 1995. 4. 1	ローレンスリバモア国立研究所 Dr. Mark B. Chadwick	量子論的分子動力学による中高エネルギー核子及び重イオン入射核反応過程の解析
1995. 3.24	ローレンスバークレー国立研究所 Dr. Swapan Chattopadhyay	電子ビーム冷却等の実験的検証
1995. 3.15～ 1995. 3.28	ロスアラモス国立研究所 Dr. Benno P. Schoenborn	中性子回折法による生体物質の原子・分子レベルでの構造解析, 「第1回先端基礎研究シンポジウム」及びワークショップ「生体物質中性子回折」に参加
1995. 6.25～ 1995. 6.29	マサチューセッツ工科大学 Prof. Bruno Coppi	シア流のあるプラズマの物性と制御の理論的解析及びワークショップ「荷電粒子多体系」に参加

### ●研究会等

年 月 日	開 催 内 容
1995. 1.26	放射線と高分子技術は、シナプス可塑性-神経回路網形成の研究にどのように寄与しうるか
1995. 3.23～24	第1回先端基礎研究シンポジウム
1995. 3.25	生体物質構造解析研究
1995. 6. 5	電子相関と原子相関
1995. 6.26	シア流のあるプラズマの物性と制御

## 編集後記



もう5年も前のことになってしまった，“常温核融合”騒動を思いだしている。人騒がせでは済まされないとブツブツ言いながら、多くの時間を費やしてしまったのだが、今になって心に残る何かを感じている。自分自身の中に、毎日夢を追いかける狂気に似た迫力があつた。組織を越えて集つた実験グループの仲間との、睡眠不足を楽しむがごとき会話のなかに、全く新しい現象に出くわすかもしれない可能性が自分たちを惹き付けている、大きな力を知覚していた。先端基礎研究センターも発足してはや2年を過し、本誌の内容も変わりつつある。本号は新しいメンバーによる編集委員会の初仕事である。既刊の誌上では、発足したグループの純粋で情熱的な夢を紹介した。いま最新の成果に基づいた記事が本号に似合う時期を迎えた。成果に立脚してさらに大きく成長した夢が語られることを願っている。(Z. Y.)